



Osaka Gakuin University Repository

Title	新語・流行語大賞から読み解くドイツの社会情勢とその授業への導入方法 Wörter des Jahres im Deutschunterricht zur Verdeutlichung der gegenwärtigen gesellschaftlichen Lage in Deutschland
Author(s)	深見 麻奈 (Mana Fukami)
Citation	大阪学院大学 外国語論集 (OSAKA GAKUIN UNIVERSITY FOREIGN LINGUISTIC AND LITERARY STUDIES), 第 81 号 : 21-40
Issue Date	2021.6.30
Resource Type	Research Note/ 研究ノート
Resource Version	
URL	
Right	
Additional Information	

新語・流行語大賞から読み解くドイツの 社会情勢とその授業への導入方法

深 見 麻 奈

1. はじめに

年の瀬になると「新語・流行語大賞」や「今年の漢字」が発表され、1年が過ぎ去ろうとするのを実感しつつその年の社会情勢を振り返る習慣があるが、ドイツでも、同じ時期にその年の「新語・流行語大賞 (Wort des Jahres)¹」が発表されていて、それが年末の風物詩の一つとなっている。それを発表しているのがドイツのヴィースバーデンに本部を置き、日本を含む世界35ヶ国にある支部も含めて合計101の支部を有する「ドイツ語協会 (Gesellschaft für deutsche Sprache, 略称 GfdS)²」である。

「ドイツ語協会」が創設されたのは、第二次世界大戦が終わった2年後の1947年であるが、その前身は1885年に設立された「全般ドイツ言語協会 (Allgemeiner Deutscher Sprachverein, 略称 ADSV)³」という団体である。「全般ドイツ言語協会」は、ドイツ語で表現できる物事は外来語ではなく必ずドイツ語で表現することを推進するという国粋主義的な団体であったが、戦後新たに、国粋主義的な傾向を廃した「ドイツ語協会」が創設された。2017年に70周年を迎えた「ドイツ語協会」は、ドイツにおいて最も古く最も重要な言語保護機関であるとされ、連邦政府の文化・メディア庁より支援を受けている⁴。

その具体的な任務は、言語の使用状況を観察して記録すること、連邦議会の法律文書に使用された言語の確認、メディアや個人から寄せられる年間5,000件以上の言語に関する質問への回答、新語・流行語大賞の発表および赤ちゃん

の人気の名前リストの発表や命名に関する相談、2年ごとにメディアに対して言語文化賞を授与すること、各種セミナーや報告を通じてドイツ語に対する意識を公衆レベルで深めることである。

「ドイツ語協会」の任務の1つである新語・流行語大賞は、1971年に初めて発表されて以来、1977年より毎年年末にその年の政治的、経済的、社会的な事情を反映する言葉に焦点を当てたトップ10が発表されているが、その選出方法は、次の通りである。外部の各種メディアや投書からその年の多くの資料⁵を集め、それらを典拠にして、協会の理事および学者からなる審査委員会が、メディアで話題となりその年を特徴づける10の言葉を選んでいる。例えば、2020年の場合、約2,500の典拠となる資料から9名の審査員（協会の理事5名、学者4名）が、ドイツの新語・流行語大賞を選出した⁶。

新語・流行語に選出される語句は、その年に誕生した新語であるか、既存の語句であってもその語句が新たなコンテキストの中で使われるようになったり、新たな意味が加わったりしたものである。その語句が、言語的に興味深いものであるかクリエイティブなものであるかも重要である。また、その表現がどれくらい使用されているかという頻度も重要な要素ではあるが、その言葉の意義や広く世間に知られているかということとその質が選出の決め手となる。それらは、現代史を形成する言葉になっていくが、選ばれた語句を評価したり、その使用を勧めたりするものではないとされている。

ドイツの新語・流行語大賞の50年近い歴史のなかで、これまでに選ばれた語を分野別に分類し、その傾向や時代の流れによる社会の変化を分析したり、言語学的なアプローチから語句を分類・説明したりするなどの手法を取ることにも可能だが、本稿では、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的大流行により大きな転換期となった2020年のドイツの新語・流行語を例として取り上げ、そこからどのようにドイツ社会の情勢を分析していくのか、日本とも比較しながら考察していこうと思う。もちろん、ドイツの新語・流行語大賞だけで、ドイツ社会の現状がくまなく分かるわけではないが、少なくとも、そ

れを通じて、どのようなことがその年ドイツで話題になったかを知る手がかりとするのは、遠く離れた国に住む我々にとって意義深いことであると思う。

さらに、ドイツの新語・流行語をどのようにドイツ語の授業に導入していけばよいのかその手法を紹介していきたい。



Wörter der vergangenen Jahre

2019	2018	2017
Jamaika-Aus	Heißzeit	Respektrente
Ehe für alle	Funklochrepublik	Rollerchaos
#MeToo	Ankerzentren	Fraturdays for Future
coyfe	Wir sind mehr	Schaulästige
Echokammer	strafbelobigt	Donut-Effekt
Obergrenze	Pflegeroboter	brexitmüde
Diesel-Gipfel	Diesel-Fahrverbot	gegengoogeln
Videobeweis	Handelskrieg	Bienensterben
=Denkmal der Schandee	Brexit-Chaos	Gilgarnicht
hyggelig	die Mutter aller Probleme	Geordnete-Rückkehr-Gesetz
2016	2015	2014
postfaktisch	Flüchtlinge	Lichtgrenze
Brexit	je suis Charlie	schwarze Null
Silvesternacht	Grenit	Götzesdank
Schmahkritik	Selektorenliste	Russlandverteher
Trump-Effekt	Mogel-Motor	bahnsinnig
Social Bots	durchwinken	Willkommenskultur
schlechtes Blut	Selfie-Stab	Social Freezing
Gruselclown	Schimmel-WM	Terror-Tourismus
Burkinverbot	Flexittare	Pretofspray
Oh, wie schön ist Panama	Wir schaffen das!	Generation Kopf unten

図1：新型コロナウイルス感染症関連の語句が並ぶ2020年のドイツの新語・流行語と2014年から2019年のドイツの新語・流行語トップ10に選ばれた言葉。

作成：ドイツ語協会

2. ドイツの新語・流行語大賞からドイツの社会情勢を読み解く

－2020年の場合－

ドイツの新語・流行語大賞を使用してどのように、社会情勢を読み解くかの例として、まず「ドイツ語協会」が発表した2020年のトップ10を紹介し、それを手掛かりとして2020年のドイツ社会がどのような状況であったのかを2020年の日本の新語・流行語とも比較しながら考えてみたい。

2020年ドイツの新語・流行語大賞 (Wörter des Jahres 2020)⁷

1位 Corona-Pandemie (コロナパンデミック)

新型コロナウイルス感染症が全国的・世界的に大流行している状況のこと。Pandemieは、ギリシア語の *pan-dēmos* (*pan*「全て」+*dēmos*「人々」) に由来する⁸。2020年のドイツの新語・流行語大賞の選出の典拠となる資料約2500のうち、1000近くもの資料に Corona-Pandemie (コロナパンデミック) という言葉が登場していた⁹。

2位 Lockdown (ロックダウン)

新型コロナウイルス感染症は主に飛沫で人から人に感染するため、流行が拡大しつつある都市を封鎖して、住民の移動や交流を制限するとともに、社会活動を一時的に停止させることで流行を抑えようとする政策のこと。疫病の流行で家から出たり移動したりすることが制限されている事態¹⁰を指す言葉として、2020年の新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、世界中で使われるようになった。

2020年当初、新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) は、未知の病原体であり、そのワクチンもまだ開発されていなかった。薬剤やワクチンを用いる20世紀以降の「薬物的な感染症対策」と区別して、ロックダウンや感染者の隔離、国境での検疫などは「非薬物的な感染症対策 (Non-pharmaceutical

intervention)」と呼ばれる古典的な手法である¹¹。

ドイツでは、2020年3月16日より1回目のロックダウン（4月下旬以降段階的に緩和）が、また、11月2日より2度目のロックダウンが本稿を執筆している2021年2月17日現在行われている。

3位 Verschwörungserzählung（陰謀物語）

ドイツ語には、もともと Verschwörungstheorie（陰謀論）という言葉があるが、Theorie（論）と呼ぶには至らないような戯言のことを Verschwörungserzählung（陰謀物語）というようになった。新型コロナウイルス感染症にまつわる陰謀物語やそのワクチンへの陰謀物語、2020年のアメリカの大統領選挙で不正があったと唱える陰謀物語がその例である。ドイツでは、新型コロナウイルス感染症蔓延防止のための各種規制に反対するデモが各地で開催されたが、その一部の人は、新型コロナウイルスが次世代通信規格「5G」に関連していると言ったり、ビル・ゲイツと関連付けたりする陰謀物語¹²を唱えた。2020年8月29日には、そのデモ隊の一部と極右勢力400人程度が国会議事堂に押し寄せ、正面の外階段付近を占拠する事件が起こった¹³。

4位 Black Lives Matter（黒人の命は大切だ）

2012年、アメリカのフロリダ州でトレイボン・マーティンという黒人の高校生が夜、フードをかぶって飲み物とお菓子を買って帰るとき、自警団の男性に不審者と見なされて射殺された。この黒人高校生は、銃などは持っていなかったが、男性は正当防衛が認められ無罪になった。それを知ったアリシア・ガルザという黒人女性が SNS に投稿した文章、“Black people. I love you. I love us. Our lives matter, Black lives matter.” が始まりで、これを見た友人の女性がハッシュタグをつけ、そこから「Black Lives Matter（黒人の命は大切だ、略称 BLM）」という言葉が SNS で拡散していった。2014年には白人の警察官による取締りで、黒人の命が奪われるケースが相次ぎ、そのたびに

抗議の声が上がり「Black Lives Matter」という言葉がさらに広がっていった¹⁴。

2020年5月25日、アメリカのミネソタ州で、黒人男性ジョージ・フロイドが白人警官に暴行されて死亡するという事件¹⁵をきっかけに、アメリカで人種差別抗議運動が大きな広がりを見せ、これが黒人に対する暴力や構造的な人種差別の撤廃を訴える世界的な運動へ展開していった。

ドイツでも2020年6月6日、アメリカ国外では最大規模とされる抗議運動が、ベルリンで1万5,000人、ハンブルクで1万4,000人、ミュンヘンで2万人以上を集め行われた。アメリカへの共感だけではなく、ドイツ国内に存在する人種差別、とりわけ警察による「レイシャルプロファイリング」に対する抗議活動が展開された¹⁶。6月10日には、長谷部誠や鎌田大地らが所属するドイツのプロサッカーリーグ「ブンデスリーガ」1部のアイントラハト・フランクフルトが、白いユニホームの胸に「#blacklivesmatter」というメッセージを掲げて戦い、その模様は世界200か国で放映された¹⁷。

5位 AHA（距離・衛生・日常生活におけるマスク着用）

「Aha」は、「ははあ」「あっそうか」「ほら」「そらね」といったニュアンスでもともとよく使われているドイツ語の間投詞である。その馴染みのある言葉を使ってドイツ版の「新しい生活様式」を示したのがAHAである。AHAは「Abstand（距離）、Hygiene（衛生）、Alltagsmaske（日常生活におけるマスク着用）」の頭文字で、「最低でも1.5mの対人距離をとり、定期的に手を洗い、口と鼻を覆うものを着用すること」を意味する。AHAに加えてAL、すなわちコロナ警告アプリの利用（Appの「A」）及び、複数人が滞在する屋内での定期的な換気（lüftenの「L」）も推奨されている。なお、ドイツでは2021年1月下旬より公共交通機関を利用する際や買い物の際に、14歳以上の人に一定の基準を満たした医療用マスクの着用が義務化された¹⁸。

6位 **systemrelevant** (システムに関連している)

直訳すると、system (システムに) relevant (関連している)。relevant は、ラテン語由来の形容詞¹⁹である。ここでいうシステムに関連しているとは、倒産するとその国のインフラを棄損するような企業のことや、医療・福祉・警察・消防・農業・食料品や日用品の販売・流通・運輸・通信・電気・ガス・水道・ごみの収集や処理などの分野で社会の基幹を支え、ロックダウンの最中でもテレワークができない職業のことを指す。これに近い言葉として、日本でも「エッセンシャル・ワーカー」という言葉が使われるようになった²⁰。

7位 **Triage** (トリアージ)

フランス語で「選別する」という意味の **trier** に起源を持つ医学用語。大量の患者が発生した場合、緊急度や重症度、回復の見込みなどから治療の優先順位を決めること。18世紀末、フランス軍のナポレオン・ボナパルトがエジプトとシリアに侵攻し、多数の負傷者を出したことをきっかけに、フランス軍の軍医が階級に関係なく、傷の重症度に応じて兵士を分類、治療するという方法を実践したことがはじまりとされる²¹。コロナ禍においては、限られた医療資源の配分を巡り、トリアージで優先順位が低いと判断された人々が切り捨てられる可能性についての議論が巻き起こった。

8位 **Geisterspiele** (無観客試合)

Geister はドイツ語で「幽霊」という意味で、**Geisterspiele** は直訳すると「幽霊試合」となる。幽霊試合とは、(プロ)スポーツの「無観客試合」のこと。ドイツでは、サッカーのブンデスリーガの2019/20シーズンが2020年5月16日より無観客で再開された²²。2020年11月2日からの2度目のロックダウンの最中も試合は中止されることなく無観客で行われている²³。

9位 Gendersternchen (ジェンダーの小さい星)

記号の「*」は、一般に asterisk (アスタリスク) と呼ばれるが、ドイツ語では Sternchen (小さい星) ともいう。

ドイツ語では、人の立場を表す言葉の大多数は、男性形が基本形で、その女性形を表すときは、ほとんどの語の場合、男性形に接尾辞の -in をつけて表現している。

例

読者 (単数形) の場合

der Leser (〈男性の〉読者) ⇒ die Leserin (女性の読者)

読者 (複数形) の場合

die Leser (〈男性の〉読者たち) ⇒ die Leserinnen (女性の読者たち)

「読者」の複数形の場合、男性読者も女性読者も含めて die Leser (読者たち) と表現していたが、近年は die Leser und Leserinnen もしくは die LeserInnen (男性の読者たちと女性の読者たち) と表記することが一般的になってきた。さらに、ドイツで2018年12月に身分登録法 (Personenstandsgesetz (PStG)) が改正され、出生した子の出生登録簿への登録の際、その子を女性にも男性にも属させることができない場合は「複 (divers)」と記載することもできるようになり、同時に性分化疾患 (DSD) を有する人々も身分登録上の性別の記載を「女」、「男」又は「複」に置き換えたり削除したりできるようになって以降²⁴、例えば上に挙げた「読者」の複数形の場合、die Leser (男性の読者たち) や die Leserinnen (女性の読者たち) だけではなく die Leser*innen (男性の読者たちや女性の読者たちだけではなく、それらの性には当てはまらない多様な性の読者達も含んだ読者たち) と表記する方法が、多くの問題²⁵を孕みながらも広まりつつある。この「*」のことを「ジェンダーの小さい星」と呼ぶ。ちなみに、Leser*innen の読みかたは、Leserinnen (女性の読者たち) と同じであるが、Leserinnen 「レーザーリネン」と区別するために

Leser*innen の「*」の後に間を置いて「レーザ リネン」と読むことになっている。

なお、単数形の Leser*in は、男女2つの性には当てはまらない多様な性の読者のことを指す表現方法である²⁶。

10位 **Bleiben Sie gesund!** (お元気で！)

bleiben は、ここでは「いつまでも～のままである」という状態をあらわすドイツ語の自動詞で gesund は「健康な」という意味の形容詞である。Bleiben Sie gesund! は、直訳すると「いつまでも健康でいてください！」という意味になる。ドイツ語圏では、別れ際にさようならやバイバイというだけでなく、例えば Schönes Wochenende! (楽しい週末を！) など一言加えるのが慣例となっているが、コロナ禍のドイツにおいては、相手が新型コロナウイルスに感染したり他の病気に罹ることなく、今後も元気でいられるようにとの願いを込めて別れ際に **Bleiben Sie gesund!** と言うのが定番となった。

以上、2020年のドイツの新語・流行語のトップ10を紹介したが、次にその内容から2020年のドイツの社会情勢を日本とも比較しながら考察していこうと思う。4位の **Black Lives Matter** (黒人の命は大切だ)、すなわち人種差別撤廃運動や、9位の **Gendersternchen** (ジェンダーの小さい星)、すなわちジェンダーの多様性に配慮した言語表現にまつわる問題以外は、コロナパンデミックに関連する表現が8つも選ばれており、2020年のドイツ社会に新型コロナウイルス感染症がいかに深刻な影響を及ぼしたかがここから見て取れる。

これら新型コロナウイルス感染症関連の言葉のうち1位 **Corona-Pandemie** (コロナパンデミック)、2位 **Lockdown** (ロックダウン)、7位 **Triage** (トリアージ) は、ドイツのみならず日本をはじめ多くの国々でも同じような表現を使用していて、全世界的に馴染みのある表現である。表現方法の違いが言語ごとにあるにせよ、5位 **AHA** (距離・衛生・日常生活におけるマスク着用)、6

位 systemrelevant (システムにかかわる)、8位 Geisterspiele (無観客試合) なども多くの国で話題に上ったと思われる言葉である。

ちなみに、2019年のドイツの新語・流行語大賞には、1位 Respektrente (尊敬年金)、2位 Rollerchaos (無秩序な電動スクーターによる混乱)、4位 Schaulästige (やじ馬で迷惑をかける人たち)、10位 Geordnete-Rückkehr-Gesetz (秩序正しい帰還法)²⁷ など、ドイツ (語) ならではの表現や話題が軒並みランクインしており、ドイツだけではなく世界中で2020年によく見聞きしたであろう語句が並ぶ2020年とは対照的であった。逆に言えば、2020年は新型コロナウイルス感染症が全世界的に大きな影を落とした年であったといえる。

普段は感情を表に表さないことで知られているドイツのメルケル首相は、2020年12月9日、2021年の予算案を審議する連邦議会での演説で、感情を露わにし、声を震わせて、科学的な根拠や具体的な事例を挙げながら国民に向けてコロナ対策への協力を訴えた²⁸。毎年恒例となっている大晦日の演説でも「今年は何年という1年だったのでしょう！」という感情のこもった出だしで始まり、「100年に一度の政治的、社会的、経済的に困難な年」であったと2020年を振り返った²⁹。

次に、ドイツと日本の2020年の新語・流行語大賞を比較して同じコロナ禍であるものの状況がどう違ったのかを考えてみたい。日本の場合は、ドイツと比べてよりエンターテインメント性の強い単語が選ばれやすいという傾向³⁰が見受けられるが、2020年の新語・流行語大賞のうち、新型コロナウイルス感染症に関連するものでトップ10に入ったのは、大賞の三密、4位のアベノマスク、5位のアマビエ、6位オンライン〇〇、7位 Go To キャンペーンの5つであり、その数はドイツより3つ少ない。しかも、7位の Go To キャンペーンや、コロナ関連ではないが8位の「鬼滅の刃」といった旅行や飲食、映画で人々の外出や接触を推進するような語句が2つ入っているのはドイツとは異なる。Go To キャンペーンや、映画の大ヒットによる人流が感染拡大に寄与したのでは

ないかという批判があるにせよ、2020年の日本は、感染防止策による制約を受けつつも、移動や集まり、エンターテインメントなどの社会経済活動が可能な感染状況であったことを示しているとも言える。なお、2021年3月の時点では、日本における新型コロナウイルスの感染者数は、ドイツの8分の1以下、死者数は、13分の1以下（人口比を勘案して算出³¹）である。

今後、両国の感染状況がどのように推移していくのかは見通せないが、少なくとも2021年初旬までの時点では、同じコロナ禍にあってもドイツのほうが状況はより深刻であったといえる。

3. ドイツの新語・流行語の授業への導入方法

以上、2020年のドイツの新語・流行語を題材として、ドイツの社会情勢を日本の新語・流行語とも比較しながら分析したが、ここからは、ドイツの新語・流行語をどのように授業の中に取り入れていくのかという手法を習熟度別に紹介したい。

ドイツ語中・上級者向け

今の学生の大多数はミレニアムの2000年前後の生まれであり、1978年からは毎年発表されているドイツの新語・流行語大賞の半数以上は、ほとんどの学生にとって自分が生まれる前のものである。それゆえに、その時代を皮膚感覚として感じるのには難しいが、ドイツの現代史や現代社会を概括的に捉える端緒とするため、学生が1人1つずつある年の新語・流行語大賞で1位となった言葉を選び、それがなぜその年の新語・流行語大賞に選ばれたのか、その単語の意味や、言葉の由来、時代や社会的背景などを調べて発表し、関連する写真や動画があれば発表に合わせて紹介するというプロジェクト形式の授業ができる。ひょっとしたら1位となった単語であってもすでに死語になっている場合もあるし、ある年代より前の人しか知らない場合もあるが、そうであっても時代性を感じ取るために学習することは無駄なことではない。

新語・流行語大賞に選ばれる単語自体が必ずしも容易なものではないため、このプロジェクトで想定される学習者のドイツ語のレベルは中級以上である。発表言語は、習熟度に応じてドイツ語か日本語とする。定義のみをドイツ語で発表し詳細は日本語で発表するというのもよい。どこまで掘り下げていくのかにもよるが、1つの語句に10分あればできるので学習活動の1つとしてドイツ語中・上級者向けの授業に組み込むことができる。

ドイツ語初学者向け

年末にその年のドイツの新語・流行語大賞が発表されたら、その意味やなぜその単語が流行したのかを説明したり、関連動画などを見せたりしながらそれを授業で教員が紹介することにより、5分程度で最新のドイツ情勢を伝えることができる。その年の日本の新語・流行語大賞と比較してみるのも良い。1位となった語句だけを紹介・比較するのも可能であるし、トップ10のうち、いくつか学生が興味を持ちそうなものや日本社会を考えるうえでも重要な事柄を選んで紹介するのも可能である。さらに時間に余裕があれば、それぞれの国のトップ10の比較、それぞれの国でどのような分野の単語が多いかなどの分析もできる。先に紹介した2020年の場合であれば、新型コロナウイルス感染症関連の語句が多くを占めたので、ドイツらしさには乏しいものの学生にとっても馴染みがあり理解しやすいものが多い。

トップ10に入った語句には、例えば2020年4位の **Black Lives Matter** (黒人の命は大切だ)、2019年3位の **Fridays for Future** (未来のための金曜日)、2017年3位の **#MeToo** (**#MeToo** 運動) のように、もともとドイツ以外の国で始まったムーブメントがドイツに入ってきているものや、2019年に6位の **brexitmüde** (ブレグジット疲れ)、2016年1位の **postfaktisch** (ポスト真実) などヨーロッパや世界情勢に関わりがあるような語句もあり、それを通じて国際情勢について学生が興味を持つきっかけにもなる。

ドイツの新語・流行語が発表されるのは11月下旬から12月上旬であるの

で、それを教材として使うのは12月上旬以降になる。ちょうどその頃は、授業回数も折り返しを過ぎ、学生も教員もお互いのことがわかり始め、学期当初の緊張感が薄れている時期である。慣れとともにマンネリ化しやすいこの時期に、教員にはその転換の技術が求められるが、今年の新語・流行語の紹介を少し間に挟むだけで、授業にその時だけの特別感や新鮮さを与えることができる。

大がかりなプロジェクトを組み込むことが難しい場合でも、新語・流行語の紹介など日々の授業にプラスアルファを加えることで、授業がより良いものになると思う。このような小さな授業改善の積み重ねが授業の活性化、学生の語学学習へのモチベーションの維持や向上につながっていくはずである。

また、その年の新語・流行語を通じて「ドイツのいま」を学生とともに追体験する作業は、遠くに暮らす我々にとって、また、コロナ禍においては簡単に行くことのできないところになってしまい、感染症が収束した後も、ドイツと日本の往来の一部はオンラインに代替されていくであろうドイツの社会とシンクロする大きなチャンスでもあり意義深い作業である。

4. 終わりに

以上、ドイツの新語・流行語大賞を発表している「ドイツ語協会」がどのような団体であるかについて、その歴史と具体的な任務、その任務の1つである新語・流行語大賞の具体的な選出方法および選出基準について説明した。

次に、世界史的な転換期となった2020年のトップ10に選ばれた言葉を例として、どのようにドイツの情勢の分析をおこなうのかの例を日本の新語・流行語とも比較しながら示した。メルケル首相が「100年に一度の政治的、社会的、経済的に困難な年」であったと振り返った2020年の新語・流行語大賞には、コロナパンデミックに関わる表現がドイツでは8つランクインしており、ドイツ（語）らしい語句が多くランクインする例年とは異なり、ドイツだけではなく世界中で2020年によく見聞きしたであろう語句が並んだ。

日本でも新型コロナウイルス感染症に関連する表現が5つランクインしており、両国ともに2020年は新型コロナウイルス感染症の流行が社会の大きな関心事であったことがうかがえるが、日本では、人々の移動や集まりを促すような語句が2つランクインしており、その点で、ドイツと同じコロナ禍ではあるものの状況が異なっていたことが見て取れた。また、2020年の新語・流行語と関連して、両国の新型コロナウイルスの感染者数や死者数を比較しても、ドイツのほうが新型コロナウイルス感染症の深刻な影響を受けていることが推察できた。

さらに、新語・流行語の授業への導入方法をドイツ語のレベル別に紹介した。ドイツ語の中・上級者向けには学生主導で、1人1つずつある年の新語・流行語大賞を選び、それがなぜその年の新語・流行語大賞に選ばれたのか、その単語の意味や、言葉の由来、時代や社会的背景などを調べて発表する。関連する写真や動画があれば発表に合わせて紹介するという1回10分程度でできるプロジェクトの手法を紹介した。

初学者向けには教員主導で、それを扱う時間に応じて、今年の新語・流行語の1位となった語句のみを紹介する、いくつか学生が興味を持ちそうなものや日本社会を考えるうえでも重要な事柄を選んで紹介する、それぞれの国のトップ10の比較、それぞれの国でどのような分野の単語が多いか分析するなどの手法で授業にその年の新語・流行語を導入することができること、それを通じて日本とも比較しながら「ドイツ社会のいま」を学生とともに年末に追体験することの意義について考えた。

今後の課題として、2020年以前のドイツの新語・流行語の日独比較と時代による変遷の分析、また、ドイツの新語・流行語を扱った授業に対する学生の反応や意見を紹介することができればと思う。

ほぼ新型コロナウイルス感染症関連一色の2020年のドイツの新語・流行語であったが、今後ドイツでどのような新語や流行語が生まれ、それが人口に膾炙するのかをみていくことで、どのようにドイツ社会がコロナパンデミックを

超克していくのか、コロナ禍がきっかけでどのような社会の変化が起きるのか、ポストコロナの時代のドイツ社会を新語・流行語とともに今後とも見守り、それを学生にも伝えていこうと思う。

注

- 1 Gesellschaft für deutsche Sprache e. V. (2020年11月) *Wort des Jahres* (<https://gfdS.de/aktionen/wort-des-jahres/#>) 2021年2月19日閲覧。
以下、ドイツの「新語・流行語大賞」については特に断りのない限りこのサイトを参照。
- 2 Gesellschaft für deutsche Sprache e. V. (2017年11月) *Gesellschaft für deutsche Sprache in Geschichte und Gegenwart* (<https://gfdS.de/wp-content/uploads/2018/02/Brosch%C3%BCre-70-Jahre-GfdS-Doppelseiten-geringe-Gr%C3%B6%C3%9Fe.pdf>) 2021年3月8日閲覧。以下、ドイツ語協会 (GfdS) についてはこのサイトを参照。
- 3 1923年に Deutscher Sprachverein (ドイツ語協会, DSV) に改称された後、1943年まで活動していた。
- 4 Gudrun GRAEWE 「Denglisch の危険性ードイツ語の現状について」(2007年)『立命館言語文化研究』19巻2号, pp.227, 235.
- 5 資料は「Frankfurter Allgemeine Zeitung」や「Die Welt」などの全国版高級紙や「Wiesbadner Kurier」などの地方紙の記事、インターネットのトップ記事、Eメールや郵送で送られてきた投書(誰でも投書可能)から探し出されたもので、毎年約2,000から3,000の資料がドイツの新語・流行語の選出に使用されている。
- 6 Gesellschaft für deutsche Sprache e. V. Dr. Lutz Kuntzsch氏によるメールでの回答(2021年3月1日)。
- 7 Gesellschaft für deutsche Sprache e. V. (2020年11月30日) *GfdS wählt »Corona-Pandemie« zum Wort des Jahres 2020*

- (<https://gfds.de/wort-des-jahres-2020-1/>) 2021年3月1日閲覧. 以下、ドイツの2020年の「新語・流行語大賞」については、特に断りのない限りこのサイトを参照.
- 8 Oxford Learner's Dictionaries (2021年)
(https://www.oxfordlearnersdictionaries.com/definition/english/pandemic_1) 2021年02月28日閲覧.
 - 9 Gesellschaft für deutsche Sprache e. V. Dr. Lutz Kuntzsch氏によるメールでの回答 (2021年3月1日).
 - 10 Cambridge Dictionary (2021年)
(<https://dictionary.cambridge.org/ja/dictionary/english/lockdown/>)
2021年3月26日閲覧.
 - 11 時事メディカル「都市封鎖の衝撃～中世ペスト対策も再現～」(2020年12月17日) (<https://medical.jiji.com/column4/37>) 2021年4月20日閲覧.
 - 12 ニューズウィーク日本版「ドイツで抗議デモ急増、陰謀論者と反ワクチン主義者が警察とジャーナリストを攻撃」(2020年5月15日)
(<https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2020/05/post-93422.php>)
2021年2月26日閲覧.
 - 13 日本経済新聞「ドイツ、国会に翻った極右の旗 大統領『民主主義への攻撃』」(2020年9月1日)
(<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO63296220R00C20A9FF8000/>)
2020年2月24日閲覧.
 - 14 NHK「Black Lives Matter が意味するもの」(2020年6月19日)
(https://www3.nhk.or.jp/news/special/presidential-election_2020/demonstration/demonstration_01.html) 2021年3月2日閲覧.
 - 15 BBC NEWS JAPAN「黒人男性、警官に膝で首を押さえ付けられ死亡 米ミネソタ州」(<https://www.bbc.com/japanese/52816160>) 2021年3月15日閲覧.

- 16 ニューズウィーク日本版「ドイツではなぜこれまで人種差別が語られてこなかったのか BLM 運動は自国の問題」(2020年6月17日)
(<https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2020/06/blm-1.php>)
2020年2月25日閲覧.
- 17 中日スポーツ「長谷部と鎌田所属のフランクフルトがユニホームに『ブラックライブズマター』試合はドイツ杯準決勝でバイエルンに敗れる」(2020年6月11日) (<https://www.chunichi.co.jp/article/71527>) 2021年2月26日閲覧.
- 18 在デュッセルドルフ日本国総領事館「ノルトライン＝ヴェストファーレン(NRW 州における新型コロナウイルス対策関連情報」(2021年2月14日)
(https://www.dus.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html) 2020年2月18日閲覧.
- 19 DUDEN (2020年) (<https://www.duden.de/rechtschreibung/relevant>)
2021年2月19日閲覧.
- 20 朝日新聞コトバンク 知恵蔵 mini 「エッセンシャル・ワーカー」(2021年)
(<https://kotobank.jp/word/%E3%82%A8%E3%83%83%E3%82%BB%E3%83%B3%E3%82%B7%E3%83%A3%E3%83%AB%E3%83%BB%E3%83%AF%E3%83%BC%E3%82%AB%E3%83%BC-2132095>) 2021年4月16日閲覧.
- 21 NIKKEI STYLE 「新型コロナ、治療の優先順位 米医師が直面する『命の選択』の難しさ」(2020年12月5日) (<https://news.yahoo.co.jp/articles/a732d86485bdf71961298f38e2bb49c8061704fd>) 2021年2月25日閲覧.
- 22 BUNDESLIGA 「ブンデスリーガ再開、5月16日に決定！」(2020年5月)
(<https://www.bundesliga.com/jp/bundesliga/news/blrestart202005-11011>)
2021年2月24日閲覧.
- 23 在デュッセルドルフ日本国総領事館「ノルトライン＝ヴェストファーレン(NRW) 州における新型コロナウイルス対策関連情報」(2020年4月20日)

- (https://www.dus.embjapan.go.jp/itpr_ja/Coronavirus_02.03.2020.html#7sochi) 2021年4月16日閲覧.
- 24 藤戸敬貴「性の在り方の多様性と法制度－同性婚、性別変更、第三の性」(2019年)『レファレンス』第819号, 国立国会図書館, pp.59.
- 25 具体的な問題点についてはドイツ語協会の下記のホームページを参照された。Gesellschaft für deutsche Sprache e. V. (2020年11月) *Die Position der GfdS zur Verwendung des Gendersternchens* (<https://gfds.de/gendersternchen/>) 2021年3月16日閲覧.
- 26 Gesellschaft für deutsche Sprache e. V. (2020年11月) *Gdersternchen* (<https://gfds.de/gendersternchen/>) 2021年3月16日閲覧.
- 27 Gesellschaft für deutsche Sprache e. V. (2020年11月29日) *GfdS wählt »Respektrente« zum Wort des Jahres 2019* (<https://gfds.de/wort-des-jahres-2019/>) 2021年3月1日閲覧.
- 28 DW News (2020年12月9日) (https://twitter.com/dwnews/status/1336616315021389824?ref_src=twsrc%5Etfw) 2021年2月24日閲覧.
- 29 Bundesregierung (2020年12月31日) *Neujahrsansprache 2021* (<https://www.bundesregierung.de/breg-de/service/bulletin/neujahrsansprache-2021-1834002>) 2021年2月18日閲覧.
- 30 例えば2020年の日本の新語・流行語大賞の2位は韓国ドラマの「愛の不時着」、3位はNintendo Switch用ゲームソフト「あつまれ どうぶつの森」7位は「鬼滅の刃」、10位にはお笑いタレントでYouTuberの「フワちゃん」であるが、ドイツの2020年の新語・流行語にそのようなエンターテインメントと関連する語句は入っていない。
- 31 2021年3月10日現在、ドイツ(人口8,310万人)の累計感染者は251万8,591名、死者7万2,489名、日本(人口1億2,562万人)の累計感染者44万1,729名、死者8,353名である。

- ・日経ビジネス「ドイツの人口、減少に転じる」(2020年10月14日)
(<https://business.nikkei.com/atcl/global/19/london/00912/>) 2021年2月25日閲覧.
- ・総務省統計局「人口推計(令和2年(2020年)9月確定値, 令和3年(2021年)2月概算値)」(2021年2月22日)
(<http://www.stat.go.jp/data/jinsui/new.html>) 2021年2月25日閲覧.
- ・Robert Koch-Institut (2021年3月11日) *COVID-19: Fallzahlen in Deutschland und weltweit*
(https://www.rki.de/DE/Content/InfAZ/N/Neuartiges_Coronavirus/Fallzahlen.html) 2021年3月11日閲覧.
- ・厚生労働省「国内の発生状況」(2021年3月10日)
(<https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kokunainohasseijoukyou.html>) 2021年3月10日閲覧.

参考文献

- ・Lutz, Kuntzsch und Sven, Müller (2020). Respektrente, Fridays for Future, brexitmüde - die Wörter des Jahres 2019. *Der Sprachdienst* Jahrgang 64, Mai-Juni: 113-133. Wiesbaden, Gesellschaft für deutsche Sprache.
- ・学習院大学「ドイツにおける『2020年の言葉』は Corona-Pandemie (コロナ・パンデミック)」(2020年12月22日).
(<https://de-gakushuin.jp/news/2020-12-22/>) 2021年2月18日閲覧.
- ・高田喜久司「授業のマンネリ化を防ぐキーポイント」(1993年)『児童心理』第47巻9号, pp.112 -118 金子書房.
- ・BILD (2020年12月30日) *33 Begriffe, die wir vor einem Jahr noch nicht kannten* (<https://www.bild.de/news/inland/news-inland/corona-33-begriffe-die-wir-vor-einem-jahr-noch-nicht-kannte74601300.bild.html>) 2021年3月3日閲覧.

Wörter des Jahres im Deutschunterricht zur Verdeutlichung der gegenwärtigen gesellschaftlichen Lage in Deutschland

Mana Fukami

Seit 1977 wird in Deutschland am Ende jeden Jahres von der Gesellschaft für deutsche Sprache (GfdS) das “Wort des Jahres” gekürt. In diesem Aufsatz werden die Aufgaben der Gesellschaft für deutsche Sprache und die Auswahlkriterien für das Wort des Jahres untersucht.

Kanzlerin Angela Merkel sagte am 31. Dezember 2020 in ihrer Neujahrsansprache für 2021: “Die Coronavirus-Pandemie war und ist eine politische, soziale, ökonomische Jahrhundertaufgabe.” 2020 war wegen Covid-19 ein Ausnahmejahr, was sich in den Wörtern des Jahres, die zur Auswahl standen, widerspiegelt. Sie werden mit den japanischen Wörtern des Jahres 2020 verglichen. Zudem wird untersucht, inwiefern diese Wörter etwas über die gegenwärtige Lage der deutschen Gesellschaft aussagen.

Weiterhin werden Möglichkeiten für den Einsatz der deutschen Wörter des Jahres im Deutschunterricht aufgezeigt.